

# メディアを活用した歴史まちづくり観光 (宇治市をフィールドに)

## 1 目的・概要

宇治市には「お茶」「平等院」「源氏物語」等魅力的なキラーコンテンツを抱えています。しかし、それが故にそれ以外の観光リソースに目が向けられていないという現状があります。そこで、私たちはキラーコンテンツ以外の知られざる宇治を「歴史」、「メディア」を活用し、伝えることを目標としました。また、それと同時に宇治市民の方々に、宇治に誇り・愛着を持って頂き、遠方からも観光客に来ていただく「近説遠来」（『論語』参照）型の観光を実現することも目標としました。



活動内容としては、春学期はラジオ番組を作成、秋学期は動画作成を行いました。教室での座学だけでなく、授業時間外にフィールドワークを多く行いました。

### Annual Schedule

#### 春学期

- |       |    |   |
|-------|----|---|
| 2018年 | 4月 | 役割分担、班決め  |
|       | 5月 | ラジオ番組テーマ決め、宇治訪問   |
|       | 6月 | テーマ修正、取材・インタビュー<br>ゲストスピーカー 構成作家 谷崎テトラ様による講演<br>ゲストスピーカー テレビ局元制作局長 森田拓治様による講演 |
|       | 7月 | 台本作成<br>ゲストスピーカー ラジオパーソナリティー ほっぺふき子様による講演<br>ラジオ番組収録、放送                       |

#### 秋学期

- |       |     |  |
|-------|-----|--|
| 2018年 | 9月  | 春学期の振り返り、意見交換  |
|       | 10月 | ゲストスピーカー シナリオライター 満井玲様による講演<br>ゲストスピーカー テレビ局ディレクター 森田肇哉様による講演<br>班決め、各班テーマ決定<br>関西テレビ見学<br>同志社大学今出川校地内にて動画撮影練習 |
|       | 11月 | ゲストスピーカー 映画監督 馬杉雅喜様による講演<br>動画編集練習、企画構成、構成台本作成   |
|       | 12月 | 動画撮影、編集  |

## 2 成果達成度

### 春学期

春学期は、4 班に分け、宇治市に関する 30 分のラジオ番組を 4 本作成しました。各班が実際に宇治を訪問し、知られざる宇治の魅力を発信することを目標としました。各班のテーマは「歌」、「お茶」、「働く人」、「SNS」です。「歌」班では、宇治市が万葉の頃から、源氏物語や和歌の舞台になり歌が盛んであったに着目し、現在も歌を通してコミュニティが作られていることを取材し、放送しました。「お茶」班では、宇治茶のおいしさだけでなく、歴史や伝統を伝えるべく、それらを守り続ける人々や今も息づくおもてなしの心を取材し、放送しました。「働く人」班は、宇治で地域に根ざした職業に就いている人（鵜匠、人力車の俵夫、お茶屋の主人）に取材を行い、宇治の魅力についてお聞きし、放送しました。「SNS」班では、地元のカメラマンから「写真を撮ることに大切なこと」を学び、五感で感じる宇治の魅力をインスタグラムにアップするラジオと SNS の連動企画を放送しました。



ラジオ番組の作成は想像以上に難しく、試行錯誤の連続でしたが、無事に納得のいくラジオ番組を作成することができ、全班収録後は充実感にあふれていました。地元の方も気づいていない新しい宇治の魅力を学生ならではの視点で発見し、それをラジオで発信することで、「近説遠来」型の地元住民の内発的なまちづくりを促すことができたと思います。また、地元の新聞にも活動が 2 度掲載され、ある一定の成果があったと思います。

### 秋学期

秋学期は、3 班に分け、宇治市に関する 6 分～8 分程度の動画を作成しました。各班春学期に行ったフィールドワークを基にテーマを決定し、1 名リーダー（ディレクター）を選び、リーダーを中心に動画作成に励みました。各班のテーマは「菟道稚郎子（うじのわきいらつこ）」、「鵜匠」、「おもてなし」です。「菟道稚郎子」班では、宇治の名前の由来になったと言われる菟道稚郎子に着目しました。関係のある宇治神社に取材に行き、そして独自の取材から菟道稚郎子とはどういう人物なのかについて、宇治には利他の精神が今も根付いていることを伝えました。「鵜匠」班では、全国的にみても珍しい女性の鵜匠を取材しました。観光で鵜飼を見るだけでは感じるできない、鵜匠の裏側、日常の風景や鵜と鵜匠との絆に焦点をあて、それらを伝えました。「お茶」班では、宇治のおもてなしの精神に惚れ込んで、移住したフランス人の方に取材を行いました。外国人からみた「おもてなし」の心と、まっ



たく休むことのない宇治のお茶屋「通圓」さんに見る「おもてなし」精神を伝えました。

動画作成は、撮影、編集が主な作業でしたが、どちらも初めての学生が多く、各班苦戦しました。特に、動画編集は各班空きコマを利用し、何時間も編集をし、大変でした。しかし、苦労した分、完成した時は非常に感動しましたし、達成感に浸りました。春学期に続き、知られざる宇治を伝えることを目標としましたが、より濃い内容になったと思います。

また、これらの動画を YouTube に投稿することで宇治の魅力発信に寄与する予定です。

## 3 プロジェクトを通じて

本プロジェクトを通じて、普通の授業では体験することができない貴重な経験をすることができ、多くの学びを得ました。

春・秋学期どちらの活動においても、「伝えることの難しさ」を学びました。森田先生の“伝える”とは“伝える事柄”、“伝えたい人”をリスペクトすること。そして、“自分自身”をリスペクトすること”という言葉が非常に印象に残っています。相手に



に私たちが伝えたい内容を正確に伝えることができるか、適切な表現なのか、これらはラジオや動画において非常に重要であると同時に普通の生活においても同じだと思います。

また、本プロジェクトを通じて、様々な能力を養うことができたと思います。初めての体験でも我慢強く最後までやり抜く忍耐力、不測の事態に対応する柔軟性、自分たちの目的を達成するための企画立案力等、これらはこの先の生活においても非常に重要だと思います。

学部・学年を超えたつながりの中で活動に奮闘した日々は大学生活の中の大切な思い出です。本プロジェクトで得た経験や学びを今後の学生生活や社会に出た際に活かしていきたいと思っています。



### 編集後記

活動を通じて、様々な宇治市の方々に取材を依頼させて頂きましたが、どなたも快く応じて頂きました。本当にありがとうございました。私たちも何度も宇治を訪問するにつれ、宇治のことをもっと知りたい!と思うようになりました。この活動を終えてもまた宇治に行きたいと思っています。最後になりましたが、ご指導して頂いた、森田先生、井口先生、宇都木さん、SAの藤本さん、そしてプロジェクトメンバーのみんな、本当にありがとうございました。

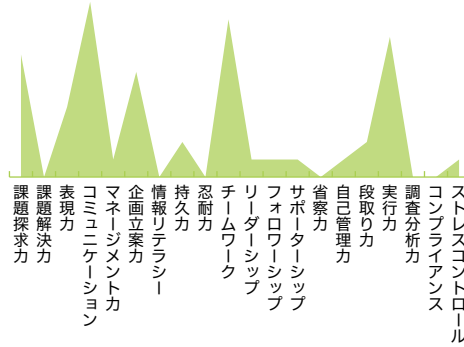
### プロジェクトメンバー

秋山 阿耶佳(グローバル地域文化2) 廣田 遥(政策2) 井上 愛菜(政策2) 中尾 一貴(社2) 宮本 晃有(経2)  
大江 貴子(グローバル地域文化2) 山下 諒輔(経2) 吉野 充哉(グローバル地域文化2) 池浦 周(文3)  
中津畑 元春(社3) 奥田 あかり(社3) 園田 凌平(経3) 田中 幹二(経3) 上野 愛絵(経3) 山内 涼平(経3)  
秋本 沙紀(文4) 池澤 健太郎(社4) 藤本 秋(SA)

## プロジェクト活動 アンケート集計結果

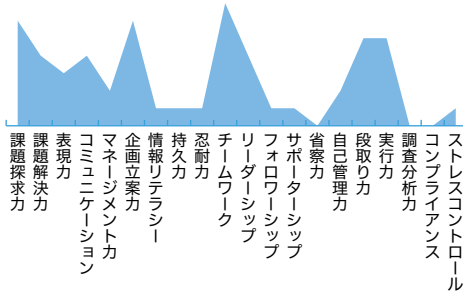
### 授業開始時

Q1 チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んで下さい

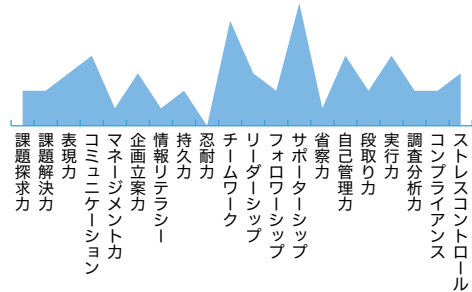


### 春学期終了時

Q1 チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んで下さい

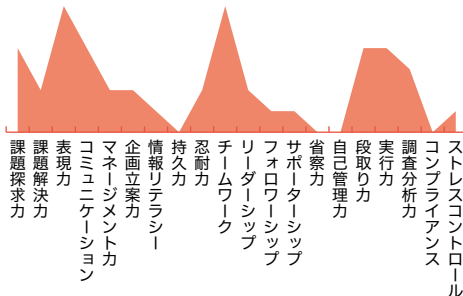


Q2 プロジェクト活動を通して実際にあなたが「身についたと思う要素」を選んで下さい



### 授業終了時

Q1 チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んで下さい



Q2 プロジェクト活動を通して実際にあなたが「身についたと思う要素」を選んで下さい

